

令和元年度 兵庫県立有馬高等学校 学校評価(自己評価)

重点目標(年度努力事項)

夢 ～見えないところで正しく振舞え、志を持ちながら、努力を積み上げることができる人を育てる～
(1)学びとキャリア教育の充実 (キャリア教育の充実・学力の向上・授業力の向上)
(2)心と体の教育の充実・生きる力の育成 (豊かな心の育成・規律ある態度の育成・いじめの防止・生きる力の育成)
(3)魅力ある学校づくり (開かれた学校づくり・学校評価の改善)

※項目1～22のすべてについて回答してください。
評価A→4 B→3 C→2 D→1
(マークカードにマークする際の基準)

重点目標1: 学びとキャリア教育の充実		主担当	目標及び計画	これまでの成果	評価A	評価B	評価C	評価D	項目No.	R1評価 下段 (H30評価)	評価点 5段階換算	
(年度努力事項)		総合学科部	目標	キャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力の向上を図るとともに、将来への展望を明確にすることで、学習意欲の向上につなげる。	・各年次の生徒に「生き方を考える」授業を年間を通して展開した。 ・「産業社会と人間」の授業では、上級学校訪問、プロフェッショナルin有馬等で、卒業後の進路や働くことについて深く考える機会となった。またグループワークや発表を通してコミュニケーション能力を向上させることができた。 ・「WILL総合的な学習の時間」では「新聞読み解き講座」を実施した後、「気になるニュース」というテーマで小論文に取り組むことで、社会により関心を持たせる機会を増やした。また、夏季課題では、職業体験や職業人インタビュー、ふれあい看護や大学授業体験など、将来を考える機会とした。後期の探究基礎講座では、SDGs(持続可能な開発目標)のワークショップを通して世界へと目を向け自分は何ができるのか考える機会とした。 ・「課題研究」では前年度にガイダンスを実施することでスムーズに調査・研究をスタートさせ、課題の解決を図る能力を身に付けるよう実践した。 ・科目選択では、5月の全体説明と教科による説明、6月の授業内での取り組み、7月の進路別説明、夏季と9月の担任による面談、10月の意思確認等例年同様丁寧な指導を実施した。	授業実践により、生徒のキャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力および、学習意欲が向上した。	授業実践により、生徒のキャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力および、学習意欲がある程度向上した。	授業実践により、生徒のキャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力および、学習意欲があまり向上しなかった。	授業実践により、生徒のキャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力および、学習意欲が向上しなかった。	1	4.2 (4.2)	4.2 (4.3)
キャリア教育の充実			計画	(1)つけたい力(目標)と成果を明らかにするよう、授業計画を見直しながら、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、「課題研究」、「実習」等を中心に、生徒に将来の生き方を探究させ、生きる力を身につけさせる活動を計画的に実施している。	・普及所との連携事業である都市農業インターシップ(農家研修)に、1年生3名が参加した。 ・普及所との連携事業である農業者特別授業を5月27日に3年生を対象に実施(トマト専業農家 小寺氏)、9月10日には2年生を対象にパスカルさんだ、県立フラワースタター、次世代型農業兵庫ネクストファームのバス見学を実施した。年明けには1月に1年生対象の講座を予定しており、在学中を通じた生徒のキャリア教育として意義のある授業が実践できた。 ・兵庫県若手地域農業リーダー育成ブラジル研修に2年生3名が参加した。 ・農業法人の説明会に3年生3名、2年生1名が参加した。 ・資格取得ではアーク溶接に27名、刈り払い機講習に39名、小型車両建機に47名が合格した。	課題研究や普及センターとの連携事業の取組、資格取得の推進により、職業的(進路)発達を促すことができた。	課題研究や普及センターとの連携事業の取組、資格取得の推進により、職業的(進路)発達を促すことができた。	課題研究や普及センターとの連携事業の取組、資格取得の推進により、職業的(進路)発達を促すことができなかった。	課題研究や普及センターとの連携事業の取組、資格取得の推進により、職業的(進路)発達を促すことができなかった。	2	4.4 (4.6)	
(目指す姿) 特色学科の利点を生かした教育活動を展開することで、生徒の職業的(進路)発達を促し、自己実現、進路実現を図る。		農業部	目標	豊かな人間性を持つ人を育てる。農業以外の職業に就いても身に付けた知識や技術、能力を生かすことができる人を育てる。農業分野のスペシャリストとして活躍できる人を育てる。	・普及所との連携事業である都市農業インターシップ(農家研修)に、1年生3名が参加した。 ・普及所との連携事業である農業者特別授業を5月27日に3年生を対象に実施(トマト専業農家 小寺氏)、9月10日には2年生を対象にパスカルさんだ、県立フラワースタター、次世代型農業兵庫ネクストファームのバス見学を実施した。年明けには1月に1年生対象の講座を予定しており、在学中を通じた生徒のキャリア教育として意義のある授業が実践できた。 ・兵庫県若手地域農業リーダー育成ブラジル研修に2年生3名が参加した。 ・農業法人の説明会に3年生3名、2年生1名が参加した。 ・資格取得ではアーク溶接に27名、刈り払い機講習に39名、小型車両建機に47名が合格した。	課題研究や普及センターとの連携事業の取組、資格取得の推進により、職業的(進路)発達を促すことができた。	課題研究や普及センターとの連携事業の取組、資格取得の推進により、職業的(進路)発達を促すことができなかった。	課題研究や普及センターとの連携事業の取組、資格取得の推進により、職業的(進路)発達を促すことができなかった。	課題研究や普及センターとの連携事業の取組、資格取得の推進により、職業的(進路)発達を促すことができなかった。	3	4.2 (4.1)	
(現状) 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、「課題研究」、「実習」等を中心に、生徒に将来の生き方を探究させ、生きる力を身につけさせる活動を計画的に実施している。			進路指導部	目標	低学年の間に将来の目標により近づける進路を考えさせ、3年生でその進路希望が実現できるようにサポートを充実させる。	1年生:3月の大学模擬授業等を通して進路目標を具体化できるように指導していきたい。 2年生:7月の分野別ガイダンスでは、それぞれの進路へ向けての理解と意識を深めた。12月に看護医療志望者を対象にガイダンスを実施した。今後も3年生0学期に向けて意欲を高めていきたい。 3年生:7月に国公立・難関私大講座を行い、夏休みを高いモチベーションで過ごせるように努めた。10月・11月に職員による推薦入試サポートに加えて、外部講師による看護医療面接講座を実施した。	各講座・サポートの時期や内容が効果的であり、生徒の進路意識の向上につながった。	各講座・サポートがある程度の意識向上につながったが、改善点が多々あり、生徒の意識向上にはつながらなかった。	予定していた講座がほとんど開講されなかった。	予定されていた講座がほとんど開講されなかった。	4	3.8 (3.8)
(年度努力事項)		学力向上委員会	目標	スタディーサポート、進研模試の結果などから生徒の学習時間や学力の実態を把握し、その向上に努める。新入試を見据えて外部検定試験を計画的に実施し、意欲の向上や学習習慣の確立、家庭学習時間の増加を図る。	・進研模試やスタディーサポートについて分析結果を職員会議で報告し、課題や成果を全職員で共有することに努めた。 ・7月に2年生、12月には1・2年生を対象にGTECを実施した。 ・2年生12月については希望者対象にスピーキングテストも実施した。 ・また、希望者を対象に6月に第1回の漢字検定を実施した。	取り組みを通して、生徒の学習意欲は全体的に向上した。	取り組みを通して、生徒の学習意欲はある程度は向上することができた。	取り組みを行ったが、ほとんどの生徒の学習意欲は向上しなかった。	取り組みを行ったが、生徒の学習意欲は上がらず、成果は得られなかった。	5	3.9 (3.8)	
学力の向上			1学年	目標	学習習慣を定着させるため、小テストの実施や、学習計画表を作成させ計画的に学習できる姿勢を育て、成績の向上に繋げる。	・小テストや学習計画表の取り組みが、学習習慣の定着に繋がり、特に上位層の生徒が安定した成績を残している。 ・意識の高い生徒とそうでない生徒の学力差が顕著に表れてきているので、進路を見据えた取り組みを今後意識させていきたい。	卒業後の進路を見据えた計画的な学習習慣が、学力の向上に繋がった。	計画的な学習習慣が教科によってある程度の成果が見られた。	学習習慣はあるものの、学力の向上に繋げることができなかった。	学習習慣が定着せず、学習に対する意欲も感じられなかった。	6	3.9 (3.8)
(目指す姿) 生徒の実態を踏まえて個に応じた教育を充実させ、授業改善を実施することで生徒の学力の向上に努め、生徒一人一人の夢を実現させる。		2学年	目標	将来の進路を意識させる事で学習意欲を高め、家庭学習時間の増加と学力の向上を図る。自ら学ぶという意欲を育てる。	・平常の授業、課題に加えて、補習や朝学習を継続して行い、基礎学力の向上に努めた。 ・7月の進路校外学習(夢ナビライブ2019)ではアドクラス以外の生徒にも案内し、125名の参加があり、進路意識の向上を図ることが出来た。 ・模擬試験やスタディーサポートでは、事前・事後の指導を行い、苦手な分野や今後の具体的な目標を意識させた。	多くの生徒が進路実現に向け、自ら学ぶ姿勢が見受けられる。	半数の生徒の学習に対する姿勢は良く、自ら学ぶ姿勢が見受けられる。	学習に対する姿勢が良い生徒もいたが、学習に対する姿勢が良い生徒は少しかいかなかった。	ほとんどの生徒の学習に対する姿勢が良くない。	7	4.0 (3.9)	
(現状) 主体的に学ぶ意欲の涵養と学力のさらなる向上のために、家庭学習習慣の確立や面談、少人数指導、小テスト、補習等の取組を推進し、個に応じた指導を図っている。			3学年	目標	自己実現を図るために必要な学力を定着させる。生徒に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けて計画的に学習する習慣を身につけさせる。	・進学希望者には長期休業中は元より、平常の早朝・放課後補習の充実を図り、9月末からは全教職員で推薦入試に向けた小論文・面接指導を行った。 ・今後も一般入試に向けた対策補習にも力を入れ、最後まで少しでも高い目標にチャレンジさせたい。	多くの生徒が自己実現を図るために、計画的に学習する習慣を身につけることができた。	計画的に学習する習慣を身につけることができた生徒はいたが、できなかった者も半数はいた。	ほとんどの生徒が計画的に学習ができず、安易な進路に流れてしまい努力できなかった。	8	3.9 (4.1)	
(年度努力事項)		学力向上委員会	目標	公開授業週間において、研究授業を中心に教員間で互いの授業を見学し、指導力の向上を図る。また研究授業、授業研究教科会において指導方法の共有や生徒の学力向上、学ぶ意欲の育成について検討する。また授業アンケートを通して、教員の資質・能力の向上を目指す。	・6月の公開授業週間では教科ごとに研究授業を行い、授業研究教科会を実施して意見交換を行った。(11月には教科の枠を超えて自分の教科以外の研究授業を見学し、グループごとに授業研究会を行う予定である。) ・5月は本校保護者を対象に、また10月にはオープンハイスクールと絡め中学生やその保護者等も対象に加え授業公開を行い、本校の授業の様子を見学していただいた。 ・7月に各授業担当者が自ら講座を選んで生徒による授業アンケートを行い、以後の授業の展開や工夫につながるようにした。(12月にももう一度実施する予定)	授業の公開や研究授業の見学、授業アンケートなどにより、授業を行う上での意識や指導力の向上につながった。	授業の公開や研究授業の見学、授業アンケートなどにより、授業を行う上での意識や指導力の向上にあまりつながらなかった。	授業の公開や研究授業の見学、授業アンケートなどにより、授業を行う上での意識や指導力の向上にあまりつながらなかった。	授業の公開や研究授業の見学、授業アンケートなどにより、授業を行う上での意識や指導力の向上にあまりつながらなかった。	9	3.7 (4.2)	
授業力の向上			教育課程委員会	目標	国公立大学・難関私立大学進学から専門学校進学、就職まで多岐にわたる進路選択に対応できる教育課程を編成し運用していくとともに、配置された科目の内容についてもより充実を図っていく。	・令和2年度入学生教育課程について、人と自然科と総合学科それぞれの特色に基づき教育課程を検討した。より高い進路目標の実現や魅力のある科目の選択を可能にした教育課程を編成して科目選択を行っている。 ・人と自然科の教育課程については、英語科について基礎基本の定着と応用力の育成、より高い進路目標への対応を図り、令和2年度入学生及び平成31年度入学生の2学年以降の科目の変更・配置の変更を行った。 ・令和2年度開講科目については、現状の生徒・職員の定数も勘案しながら、少人数制授業など、できる限り多くの講座が開講できるよう考えている。	多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることができた。	多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることがあまりできなかった。	多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることができなかった。	10	3.5 (4.2)	
(目指す姿) 教職員の資質・能力を向上させ、教育課程の編成と運用に創意工夫をすすめることで、生徒に確かな学力を確実に定着させる授業づくりを協働的に推進する。		教育課程委員会	計画	(1)令和2年度入学生教育課程について、学科の特色に基づいた思考力・判断力の伸長を図り、基礎基本の定着や、高い進路目標の実現を目指した教育課程を編成する。 (2)教科会を定期的に行い、カリキュラムの内容や学年ごとの授業の到達度などを教科内で確認し、適切な指導につなげていく。 (3)教育課程に配置された科目について、それぞれの科目の目標を教科内で共有し、より内容を充実させていく。	・令和2年度入学生教育課程について、人と自然科と総合学科それぞれの特色に基づき教育課程を検討した。より高い進路目標の実現や魅力のある科目の選択を可能にした教育課程を編成して科目選択を行っている。 ・人と自然科の教育課程については、英語科について基礎基本の定着と応用力の育成、より高い進路目標への対応を図り、令和2年度入学生及び平成31年度入学生の2学年以降の科目の変更・配置の変更を行った。 ・令和2年度開講科目については、現状の生徒・職員の定数も勘案しながら、少人数制授業など、できる限り多くの講座が開講できるよう考えている。	多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることができた。	多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることがあまりできなかった。	多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることができなかった。	多様な進路選択に対応する教育課程の編成と、教科においてその内容についての共通理解及び目標に応じた科目の内容を充実させることができなかった。	11	3.5 (4.2)	

(年度努力事項)	生きる力の育成	総合学科部	目標	習得した知識や技能を活用して、自ら課題を解決させるために必要な思考力・判断力・表現力などを育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う。そのために、言語活動の充実、見通しや振り返り、人間としての在り方生き方を考える授業を展開する。	・「産業社会と人間」「WILL総合的な学習の時間」における、上級学校訪問、プロフェッショナルin有馬、職業体験や大学授業体験といったプログラムを実施し、主体的に自らの将来を考え学習に向かう機会とした。 ・1年次生において「コミュニケーショントレーニング」を実施し、意見の異なる相手に自分の考えを理解してもらい、相手の話をよく聞き話を発展させていく力を養った。 ・2年次生において「言語カドリル」を導入し、論理的に情報を読み取り、考える時間を設けた。 ・上級学校訪問、プロフェッショナルin有馬、職業人インタビュー(夏季課題)といったプログラムにおいてインタビュー活動を実践し、生徒は主体的に取り組むことができた。 ・上級学校訪問発表会、1分間スピーチ、2分間スピーチ、夏季課題発表会、課題研究発表会を実施し生徒が人前で伝えたいことをわかりやすく伝える力を身につける機会となった。	生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することが十分できた。	生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することがある程度できた。	生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することがあまりできなかった。	生徒自ら課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養う授業を実施することができなかった。	17	4.2 (4.2)	4.2 (4.3)
			計画	自らのキャリアデザインを考えることを軸とする授業、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」において体験的活動を充実させる。 (1)コミュニケーショントレーニングの実施 (2)インタビュー活動の実践 (3)各種発表会の実施	・人と自然の博物館との連携セミナー、チャレンジ教室(フラワーアレンジメント、クラインガルトン)、有馬富士公開セミナーなど、関係機関や地域と連携した授業を計画通り実施し、地域資源を有効に活用して生徒のスキルアップや問題解決能力を向上させることができた。 ・学校農業クラブ活動を通して、田植え、稲刈りボランティアにおける都市部園児との交流事業、丹南精明園、有馬高原病院などの福祉施設、三田警察署、消防署など公共施設での植栽活動を精力的に実施し、日頃の学びの深化につなげることができた。 ・農業クラブの大会では、意見発表で全国大会出場ができ、農業鑑定では全国大会で優秀賞を受賞することができ、日頃の学習成果が発揮できた。 ・ひょうご産業教育フェアやひょうごまちなみガーデンショー、淡路花博などの各種イベントに農産物販売や花壇作庭などにも参加し、生徒の社会性や表現力、コミュニケーション能力の向上につながった。	各事業を計画的に実施でき、活動も生徒が主体的に取組み、思考力・判断力・表現力を育むことが十分できた。	各事業を計画的に実施でき、活動も生徒が主体的に取組み、思考力・判断力・表現力を育むことが十分程度できた。	事業によっては計画的に実施できず、生徒の取り組みも不十分で、思考力・判断力・表現力を育むことがあまりできなかった。	各事業が計画通り実施できず、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができなかった。	18	4.4 (4.5)	
(目指す姿) 特色ある学科の利点を生かした教育活動を推進することで、夢や志を抱き、自らの豊かな未来を切り開く「生きる力」育む充実した教育活動を展開する。	(現状) 学科の特色を生かし、人間的なふれあいや自然との関わりを数多く経験することで、生徒たちは社会性や自主性・自立性を身につけている。	農業部	目標	学科の特色である体験学習を中心に主体的に活動できる生徒の育成を図り、授業や学校農業クラブ活動を通して、様々な地域貢献活動に積極的に参加する。	・人と自然の博物館との連携セミナー、チャレンジ教室(フラワーアレンジメント、クラインガルトン)、有馬富士公開セミナーなど、関係機関や地域と連携した授業を計画通り実施し、地域資源を有効に活用して生徒のスキルアップや問題解決能力を向上させることができた。 ・学校農業クラブ活動を通して、田植え、稲刈りボランティアにおける都市部園児との交流事業、丹南精明園、有馬高原病院などの福祉施設、三田警察署、消防署など公共施設での植栽活動を精力的に実施し、日頃の学びの深化につなげることができた。 ・農業クラブの大会では、意見発表で全国大会出場ができ、農業鑑定では全国大会で優秀賞を受賞することができ、日頃の学習成果が発揮できた。 ・ひょうご産業教育フェアやひょうごまちなみガーデンショー、淡路花博などの各種イベントに農産物販売や花壇作庭などにも参加し、生徒の社会性や表現力、コミュニケーション能力の向上につながった。	多くの生徒が進路希望に合った体験に参加し、体験を通して学べたことが指針となり、進路実現に向け主体的に行動できるようになった。	多くの生徒が進路希望に合った体験に参加し、体験は充実したものであったが、主体的な行動をはじめない生徒はあまりいなかった。	進路希望に合った体験に参加しない生徒がおり、体験もあまり充実したものにならなかった。	多くの生徒にとって体験が充実したものにならなかった。	19	4.1 (4.2)	4.2 (4.3)
			計画	(1)人と自然の博物館連携セミナー(人と自然科1年生)年間8回 (2)ありまふじ公園公開セミナー(人と自然科3年生)年間26回 (3)三田警察署・三田消防署・障がい者施設などの花壇緑化運動 (4)田植え・稲刈りなど、農業を通した園児との交流活動の推進。	・2年次生が夏休みに自分の進路希望に合わせて各コースに参加した。複数の体験活動に参加するなど進路決定に向けての意欲的を感じる事ができた。	多くの生徒が進路希望に合った体験に参加し、体験は充実したものであったが、主体的な行動をはじめない生徒はあまりいなかった。	多くの生徒が進路希望に合った体験に参加し、体験は充実したものであったが、主体的な行動をはじめない生徒はあまりいなかった。	多くの生徒にとって体験が充実したものにならなかった。	19	4.1 (4.2)		
(年度努力事項)	生きる力の育成	進路指導部	目標	自分の進路希望に適した校外での体験活動への参加を促し、進路実現に向けて主体的な行動ができるようにする。	・2年次生が夏休みに自分の進路希望に合わせて各コースに参加した。複数の体験活動に参加するなど進路決定に向けての意欲的を感じる事ができた。	多くの生徒が進路希望に合った体験に参加し、体験を通して学べたことが指針となり、進路実現に向け主体的に行動できるようになった。	多くの生徒が進路希望に合った体験に参加し、体験は充実したものであったが、主体的な行動をはじめない生徒はあまりいなかった。	進路希望に合った体験に参加しない生徒がおり、体験もあまり充実したものにならなかった。	多くの生徒にとって体験が充実したものにならなかった。	19	4.1 (4.2)	4.2 (4.3)
			計画	(1)オープンキャンパス、夢ナビライブなどの進学行事 (2)看護医療体験(ふれあい看護体験、理学・作業療法体験など) (3)ときめき仕事体験 (4)インターンシップ(有馬、県庁など)	・2年次生が夏休みに自分の進路希望に合わせて各コースに参加した。複数の体験活動に参加するなど進路決定に向けての意欲的を感じる事ができた。	多くの生徒が進路希望に合った体験に参加し、体験を通して学べたことが指針となり、進路実現に向け主体的に行動できるようになった。	多くの生徒が進路希望に合った体験に参加し、体験は充実したものであったが、主体的な行動をはじめない生徒はあまりいなかった。	進路希望に合った体験に参加しない生徒がおり、体験もあまり充実したものにならなかった。	多くの生徒にとって体験が充実したものにならなかった。	19	4.1 (4.2)	

重点目標に関わる本年度努力事項と具体的取組(その3)

上段 R1評価
下段 (H30評価)

重点目標3: 魅力ある学校づくり	主担当	目標及び計画	これまでの成果	評価A	評価B	評価C	評価D	項目No.	評価点(5段階)		
(年度努力事項)	総務・広報部	目標	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場を活性化させ、積極的に外部の意見を取り入れる。その結果として、本校への志願者増につなげる。	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場が多くなる人が参加し、有馬の魅力をアピールすることができた。「学習活動発表会」への参加者が大幅増となった。	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場が多くなる人が参加し、有馬の魅力をアピールすることができた。	オープンハイスクールや公開授業、学校行事など、学校を公開する場への参加者が少なかった。	オープンハイスクールや公開授業、学校行事などを計画通り運営することができなかった。	20	4.3 (4.4)		
開かれた学校づくり		計画	(1)保護者会、授業公開を充実させる。 (2)中学校関係者に対しての年4回のオープンハイスクールのPRを工夫し、オープンハイスクールの内容も充実させる。	・夏季及び秋季オープンハイスクール、公開授業には、合計で約1300名の参加を頂き、本校の特色をアピールし、学びの様子を実際に観ていただいた。参加者数は昨年度と比較して100名程度増加し、多くの皆様に良い印象を持っていただいたようである。現時点(9月1日現在、県教委調べ)での本校入学希望者は、両学科とも定員を超え、人と自然科が64名(募集定員40名)、総合学科は252名(募集定員200名)と、比較的順調である。これは、長年にわたる各部署・学年団、学校全体の取り組みが、中学校や地域に理解され、評価が得られていると考えられる。 ・今後は、12月25日に実施の「冬季学校説明会」、令和2年2月1日実施予定の「学習活動発表会」に向けて、入念に準備を進めていく。特に、学習活動発表会については、本校の取り組みを知っていただくうえで絶好の機会であり、多くの中学生に参加してもらえよう、積極的な広報活動に努める。	ユーザー登録をした教師の8割以上がブログでの情報発信を行った。	ユーザー登録をした教師の5割以上がブログでの情報発信を行った。	ブログでの情報発信を行った教師が、ユーザー登録をした数の5割以下であった。			HP、ブログが適切に運営されておらず、情報発信が不十分であった。	
(目指す姿) 有馬高校の特色、魅力ある取組を積極的に提供することで、学校としての説明責任を果たし、地域に信頼される学校づくりを推進する。また、家庭や地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進していく。	HP・情報委員会	目標	学校ホームページで、活発な情報発信を行う。	・ブログなどを活用した教育活動情報の発信を活性化させるために、情報委員会で各ユーザー最低1回のブログ発信目標を設定し、職員会議において全職員に連絡した。具体的な対応として、全教職員分のユーザーIDを発行した。 ・多くの教職員の協力のもと、学習活動の成果や学校行事、更にはクラブ活動の実績報告など、学校生活の様々な場面の情報発信が行えた。 ・気象警報の発令など、学校から適切に緊急時の情報発信を行うことに努めた。 ・学校説明会の案内及びその出欠集約を、学校ホームページ上で行った。多くの中学生及び保護者への周知が出来たとともに、参加希望者の手続きの簡素化に努めた。	ユーザー登録をした教師の8割以上がブログでの情報発信を行った。	ユーザー登録をした教師の5割以上がブログでの情報発信を行った。	ブログでの情報発信を行った教師が、ユーザー登録をした数の5割以下であった。	HP、ブログが適切に運営されておらず、情報発信が不十分であった。	21	3.5 (4.3)	
開かれた学校づくり		計画	(1)学校ホームページの維持管理に努める。 (2)HP情報委員を中心に、部活動顧問、学年・部担当者がブログでの情報発信の方法について高い意識をもち、行事等の情報発信に努める。	・校内学校評価委員会を予定通り開催し(5月・10月)、本年度の学校評価について検討した。 ・職員会議において、全職員に「学校評価」の趣旨および本年度の重点目標を説明し、学校評価を外部とのコミュニケーションツールとして活用して、教育活動、学校運営の改善を全職員で進めていくことの大切さを説明した。 ・評価基準をできるだけ統一し、よりわかりやすくするため、評価項目の文言を整理した。 ・「目標」と「計画」について、必要かつ可能な範囲で数値目標を導入することで目標の達成状況を明確にして、評価しやすようにした。 ・7月に本年度の第1回学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価委員の方々に本校の重点目標や取組計画等についてわかりやすく説明することができた。 ・全体のレイアウトを工夫することで、より見やすく評価しやすように改善した。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を果たし、教育活動、学校運営の改善に活用されている。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を概ね果たし、ユーザー登録をした数の5割以下であった。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善にあまり活用されていない。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善に活用されていない。			
(年度努力事項)	学校評価委員会	目標	学校が今年度取り組むべき課題を明確にし、重点目標を達成するために、主担当が中心となって学校全体で組織的に取組を推進する。成果と課題を評価し、改善することで、教育活動、学校運営の向上を図る。有識者、地域代表者等から広く意見を求め、学校改善および活力にあふれた魅力ある学校づくりを推進する。	・校内学校評価委員会を予定通り開催し(5月・10月)、本年度の学校評価について検討した。 ・職員会議において、全職員に「学校評価」の趣旨および本年度の重点目標を説明し、学校評価を外部とのコミュニケーションツールとして活用して、教育活動、学校運営の改善を全職員で進めていくことの大切さを説明した。 ・評価基準をできるだけ統一し、よりわかりやすくするため、評価項目の文言を整理した。 ・「目標」と「計画」について、必要かつ可能な範囲で数値目標を導入することで目標の達成状況を明確にして、評価しやすようにした。 ・7月に本年度の第1回学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価委員の方々に本校の重点目標や取組計画等についてわかりやすく説明することができた。 ・全体のレイアウトを工夫することで、より見やすく評価しやすように改善した。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を果たし、教育活動、学校運営の改善に活用されている。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を概ね果たし、ユーザー登録をした数の5割以下であった。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善にあまり活用されていない。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善に活用されていない。	22	3.6 (3.9)	3.6 (3.9)
学校評価の改善		計画	(1)校内学校評価委員会を年4回以上実施し、学校評価の改善を推進する。 (2)学校関係者評価委員会を年2回実施し、校外の有識者の意見を参考とし、より一層の教育活動、学校運営の改善に努める。 (3)職員会議等で学校評価の重点目標についての共通理解を図り、職員が方向性を一つにして教育活動に取り組む意識を高める。 (4)年度末に学校評価の結果をウェブページで公表し、本校の取組の成果をアピールするとともに次年度への改善に努める。	・校内学校評価委員会を予定通り開催し(5月・10月)、本年度の学校評価について検討した。 ・職員会議において、全職員に「学校評価」の趣旨および本年度の重点目標を説明し、学校評価を外部とのコミュニケーションツールとして活用して、教育活動、学校運営の改善を全職員で進めていくことの大切さを説明した。 ・評価基準をできるだけ統一し、よりわかりやすくするため、評価項目の文言を整理した。 ・「目標」と「計画」について、必要かつ可能な範囲で数値目標を導入することで目標の達成状況を明確にして、評価しやすようにした。 ・7月に本年度の第1回学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価委員の方々に本校の重点目標や取組計画等についてわかりやすく説明することができた。 ・全体のレイアウトを工夫することで、より見やすく評価しやすように改善した。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を果たし、教育活動、学校運営の改善に活用されている。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を概ね果たし、ユーザー登録をした数の5割以下であった。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善にあまり活用されていない。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善に活用されていない。			
(目指す姿) 学校評価を教職員、外部とのコミュニケーションツールとして活用し、活力のある学校づくりを推進する。校務の適切なスクラップアンドビルドを推進し、学校改善・改革に努める。	学校評価委員会	目標	学校が今年度取り組むべき課題を明確にし、重点目標を達成するために、主担当が中心となって学校全体で組織的に取組を推進する。成果と課題を評価し、改善することで、教育活動、学校運営の向上を図る。有識者、地域代表者等から広く意見を求め、学校改善および活力にあふれた魅力ある学校づくりを推進する。	・校内学校評価委員会を予定通り開催し(5月・10月)、本年度の学校評価について検討した。 ・職員会議において、全職員に「学校評価」の趣旨および本年度の重点目標を説明し、学校評価を外部とのコミュニケーションツールとして活用して、教育活動、学校運営の改善を全職員で進めていくことの大切さを説明した。 ・評価基準をできるだけ統一し、よりわかりやすくするため、評価項目の文言を整理した。 ・「目標」と「計画」について、必要かつ可能な範囲で数値目標を導入することで目標の達成状況を明確にして、評価しやすようにした。 ・7月に本年度の第1回学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価委員の方々に本校の重点目標や取組計画等についてわかりやすく説明することができた。 ・全体のレイアウトを工夫することで、より見やすく評価しやすように改善した。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を果たし、教育活動、学校運営の改善に活用されている。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を概ね果たし、ユーザー登録をした数の5割以下であった。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善にあまり活用されていない。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善に活用されていない。	22	3.6 (3.9)	3.6 (3.9)
学校評価の改善		計画	(1)校内学校評価委員会を年4回以上実施し、学校評価の改善を推進する。 (2)学校関係者評価委員会を年2回実施し、校外の有識者の意見を参考とし、より一層の教育活動、学校運営の改善に努める。 (3)職員会議等で学校評価の重点目標についての共通理解を図り、職員が方向性を一つにして教育活動に取り組む意識を高める。 (4)年度末に学校評価の結果をウェブページで公表し、本校の取組の成果をアピールするとともに次年度への改善に努める。	・校内学校評価委員会を予定通り開催し(5月・10月)、本年度の学校評価について検討した。 ・職員会議において、全職員に「学校評価」の趣旨および本年度の重点目標を説明し、学校評価を外部とのコミュニケーションツールとして活用して、教育活動、学校運営の改善を全職員で進めていくことの大切さを説明した。 ・評価基準をできるだけ統一し、よりわかりやすくするため、評価項目の文言を整理した。 ・「目標」と「計画」について、必要かつ可能な範囲で数値目標を導入することで目標の達成状況を明確にして、評価しやすようにした。 ・7月に本年度の第1回学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価委員の方々に本校の重点目標や取組計画等についてわかりやすく説明することができた。 ・全体のレイアウトを工夫することで、より見やすく評価しやすように改善した。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を果たし、教育活動、学校運営の改善に活用されている。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割を概ね果たし、ユーザー登録をした数の5割以下であった。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善にあまり活用されていない。	学校評価が教職員間、外部とのコミュニケーションツールとしての役割や教育活動、学校運営の改善に活用されていない。			